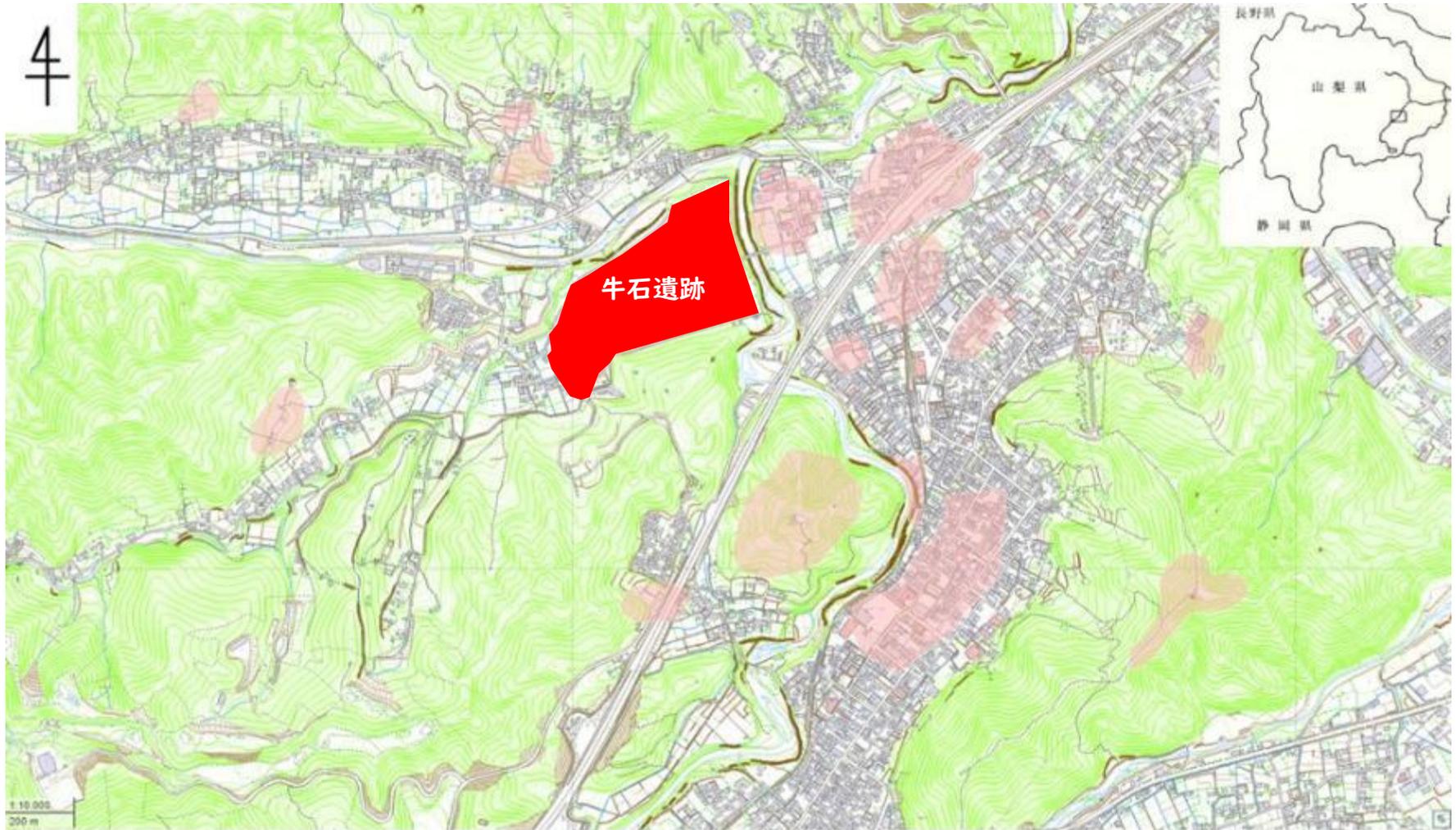


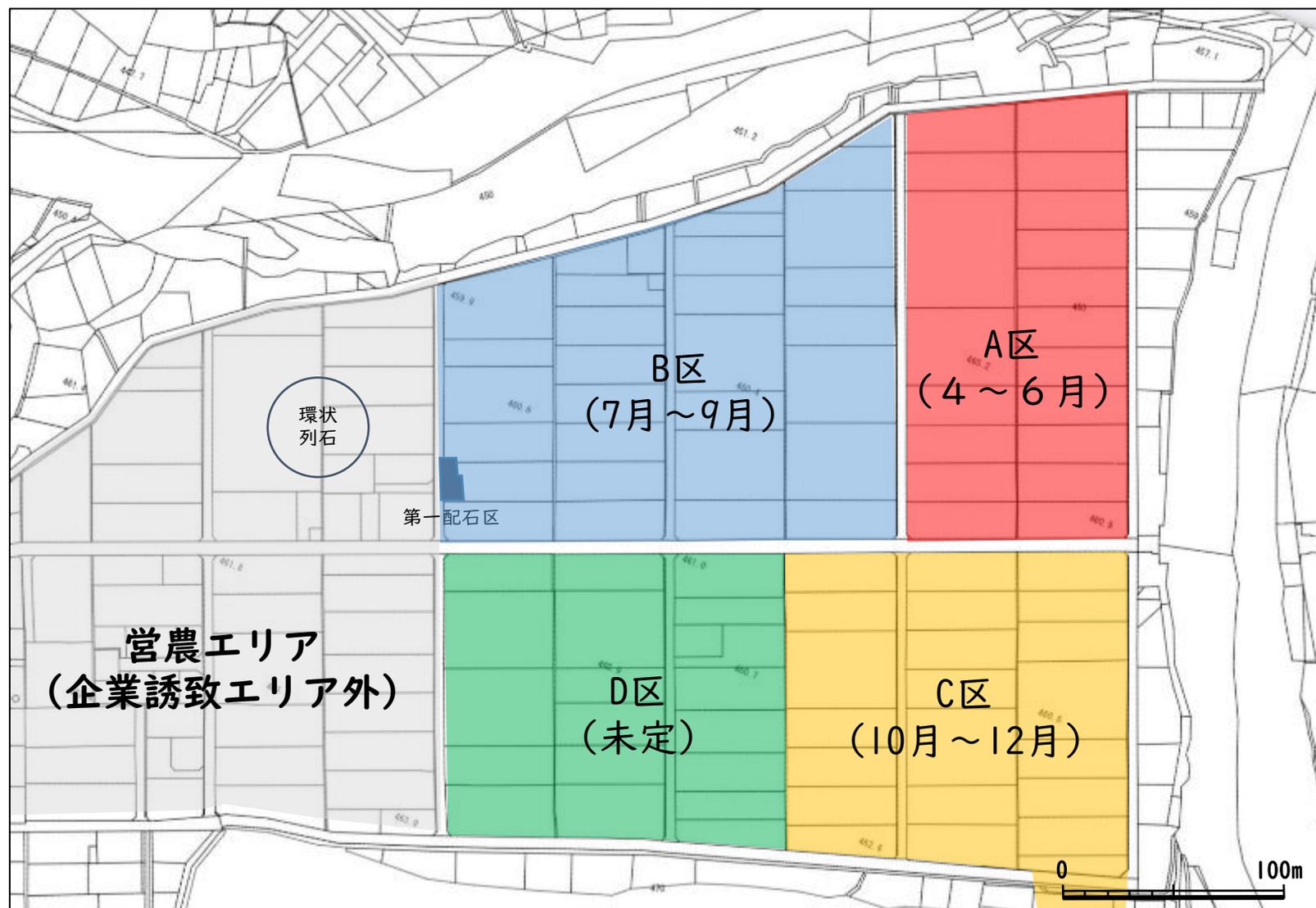
令和7年度 都留市文化財審議会
(第2回会議)
資料1

「牛石遺跡発掘調査の全体説明について」

牛石遺跡の位置・概要について



所在地：都留市厚原字牛石
遺跡名：牛石遺跡（遺跡No.204-40）
時代：縄文／奈良／平安
分類：集落跡



各区画面積および総面積：

A区：39,645㎡ B区：14,053㎡ C区：24,305㎡ D区：19,931㎡ + 農道 合計118,568㎡

試掘調査スケジュール：4区画に分けてR7.4月～12月まで実施（一部未買収のため未実施）

牛石遺跡の試掘調査に伴う経緯と今後の方向性について（全体的なミッション）

◆ 経緯

- 牛石遺跡は、縄文時代から奈良・平安時代にわたる集落跡であり、昭和54・55・56年には圃場整備事業に伴う発掘調査が、昭和60・61年には農道牛石線改良工事に伴う発掘調査が行われている。調査の結果、遺跡の東側半分には奈良・平安時代の集落跡が確認され、西側には縄文時代中期の大環状配石遺構を中心とする配石遺構群が確認された。
- 大環状配石遺構は直径50mに及び、東西南北に位置する小サークル状の配石遺構、それを連結する列石遺構、環状に巡る列石の内側に沿うように確認された組石という3つの配石で構成されている。また、列石と同時期の住居跡などの生活跡の存在が確認されている。環状配石は国史跡にもなり得る検出事例の少ない縄文時代中期後葉の遺構であり、さらに当該地所は近年の学術研究において郡内地域の古代官衙（律令時代の行政機関）遺跡でもある可能性が指摘されている。
- なお、当遺跡は発掘調査が行われていた際の職員の異動などに伴い、昭和54・55・56年に実施した圃場事業の発掘調査報告書については現在も未刊行である（一部、市史含む他資料にまとめられているとおり）。

◆ 方針

- 企業誘致事業の対象地として牛石遺跡内が該当することを踏まえ、令和7年から順次試掘調査を実施するにあたって、新たに文化財主事（2名）を配置したが、試掘計画の作成や現場判断において、経験を加味した専門的な知見が求められるため、加えて人材育成も考慮した指導体制を整える必要があるため「牛石遺跡発掘調査指導委員会」を設置し、指導委員との意見交換の上、法令に基づき試掘業務を適切に進める。
- なお、指導委員会での協議事項や決定した方針については、適宜、文化財審議会での報告を行う。
- また、過去の調査成果と今回の調査成果を包含する報告書の刊行が必要である。

◆ 事業の最終目標

- 牛石遺跡を含む周辺の遺跡の範囲を把握・整理し、今後の開発行為における発掘調査に活用する。
- 今回の試掘結果を踏まえ、未刊行の報告書の作成に活用する。

牛石遺跡の試掘調査に伴う経緯と今後の方向性について

◆ これまでの調査結果概要

①昭和54年度調査
(第一次調査)

【調査目的・対象】

圃場整備事業に伴い、段丘東側半分を対象とした調査。

【結果】

奈良・平安時代の住居跡が23軒検出された。

【課題】

過去資料が散逸し、また、過去の試掘・発掘調査についての報告書が刊行されていないため、住居跡の位置等、当時の発掘調査成果の詳細を具体的に把握することができない。

②昭和55・56年度調査
(第二・三次調査)

【調査目的・対象】

圃場整備事業に伴い、段丘西側半分を対象とした遺跡の範囲確認を目的とした調査(第二次)
第二次調査で確認された環状列石主体部の全掘を目的とした調査(第三次)。

【結果】

縄文時代中期末葉の環状列石を中心とする遺構群が確認され、配石遺構内から、石棒や埋設土器が検出された。また、弥生時代の住居跡が3軒検出されている。

【課題】

過去資料が散逸し、また、過去の試掘・発掘調査についての報告書が刊行されていないため、住居跡の位置等、当時の発掘調査成果の詳細を具体的に把握することができない。

③昭和60・61年度調査
(第四次調査)

【調査目的・対象】

農道牛石線の改良工事に伴う調査。

【結果】

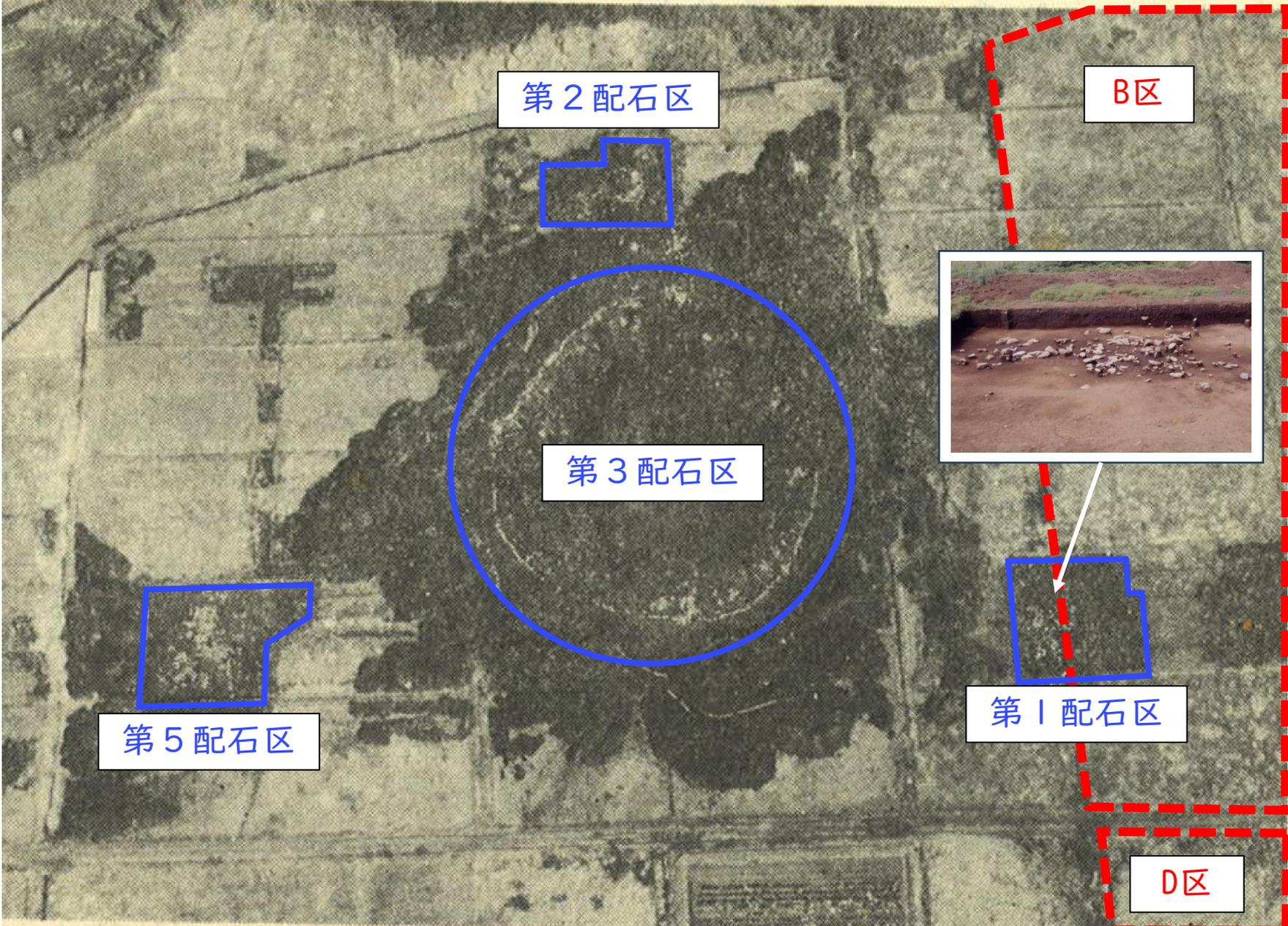
農道牛石線上の限定された調査であったため出土遺物は多くないが、環状列石と同時期の住居跡および配石が検出された。

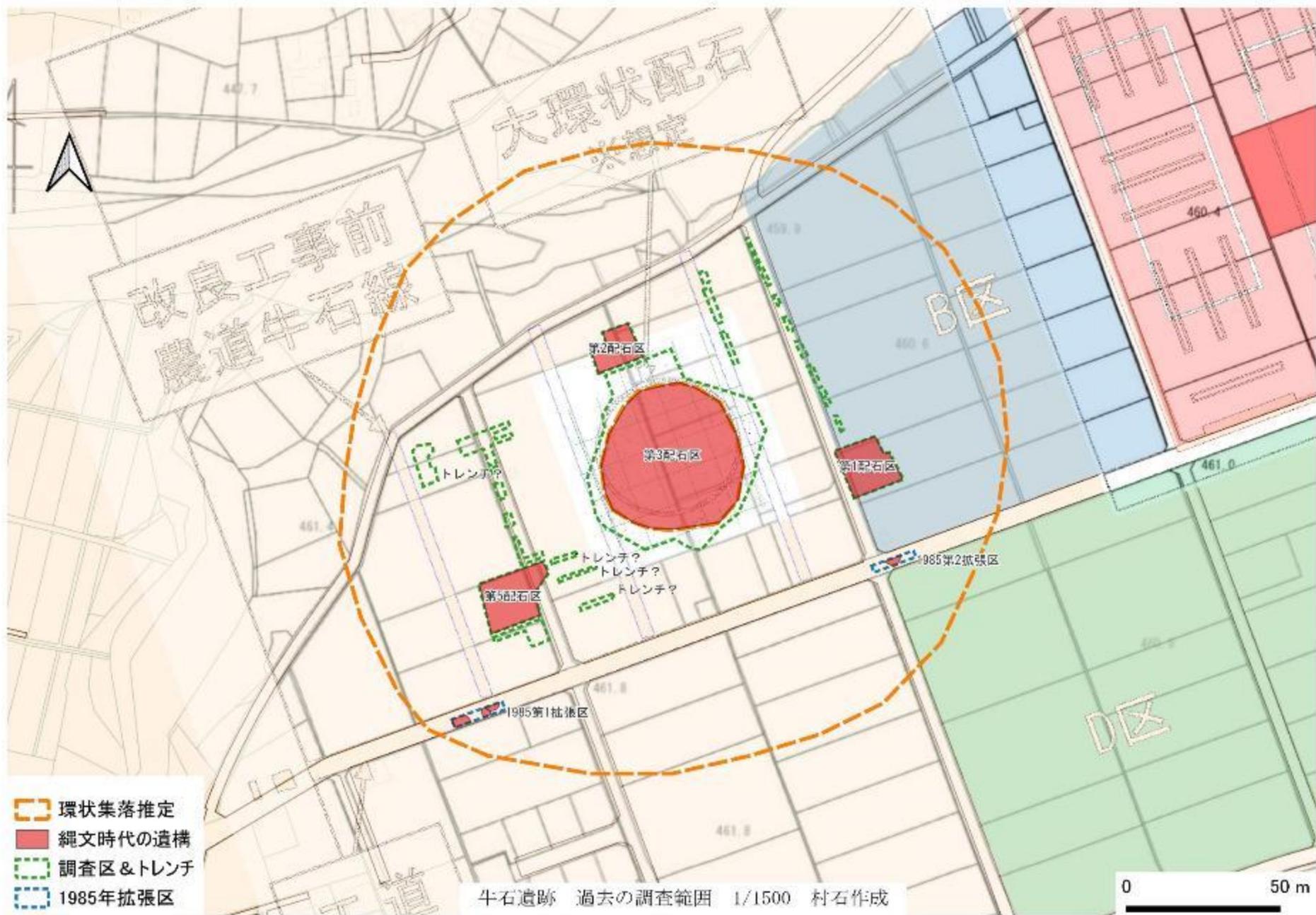
【課題】

調査範囲が限定的であることから、遺跡の全容について把握できていない。

◆ 出土遺物の傾向

- ・ 縄文土器：縄文時代中期末葉の曾利式の土器が多く出土している。中には、前期末葉の十三菩提式のものや中期初頭の五領ヶ台式のものもみられる。
- ・ 縄文石器：打製石斧やスクレイパーが出土しており、頁岩製のものである。
- ・ 弥生土器：遺跡西側の弥生時代の住居跡から、甕形土器や小型甕形土器などが出土している。
- ・ 奈良・平安土器：奈良・平安時代の土師器片や須恵器片、盤状坏などが出土している。





調査にあたっての関係団体との協議の実施について

■牛石遺跡発掘調査指導委員会

事前打ち合わせ (R6.12.24)

第1回 (R7.1.27)

牛石遺跡におけるこれまでの動き及び試掘計画について

第2回 (R7.4.8)

現地確認

第3回 (R7.5.1)

牛石遺跡・Aエリアの今後の方向性について

第4回 (R7.5.22)

牛石遺跡・Aエリアの今後の方向性について

第5回 (R7.6.23)

現行の試掘調査状況について 等

第6回 (R7.8.29)

調査成果(現状)及び今後の動きについて

第7回 (R7.10.8)

A、B区の試掘調査報告及び本掘調査、C区の予定について

第8回 (R7.11.19)

B区の試掘結果について

■都留市文化財審議会

第1回 (R7.8.13)

牛石遺跡試掘調査におけるこれまでの動きについて

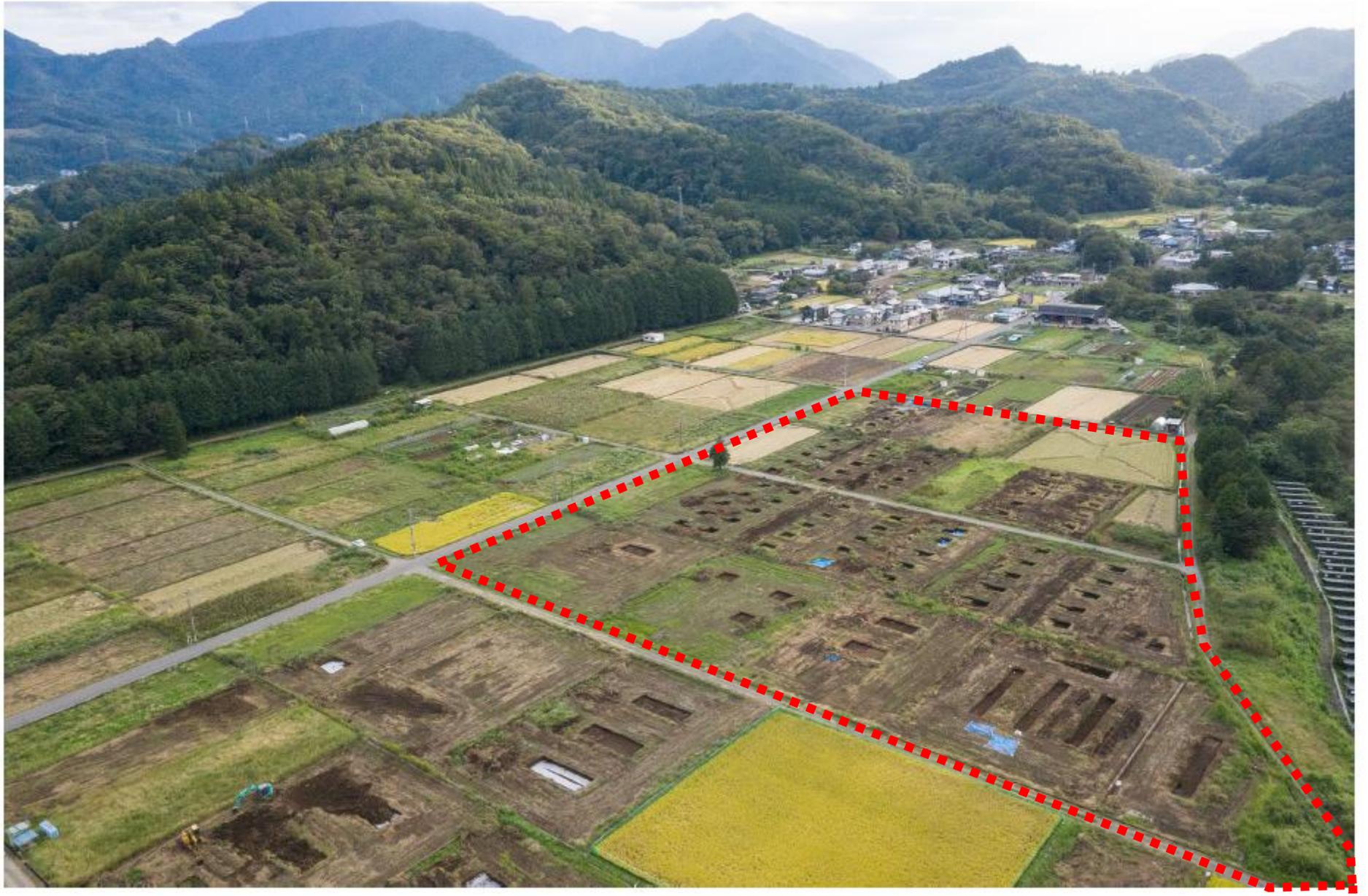
調査にあたり、「牛石遺跡発掘調査指導委員会」を設置し、有識者との協議の元、調査を実施した。
また、調査内容は「都留市文化財審議会」へ報告を実施した。

試掘調査結果概要

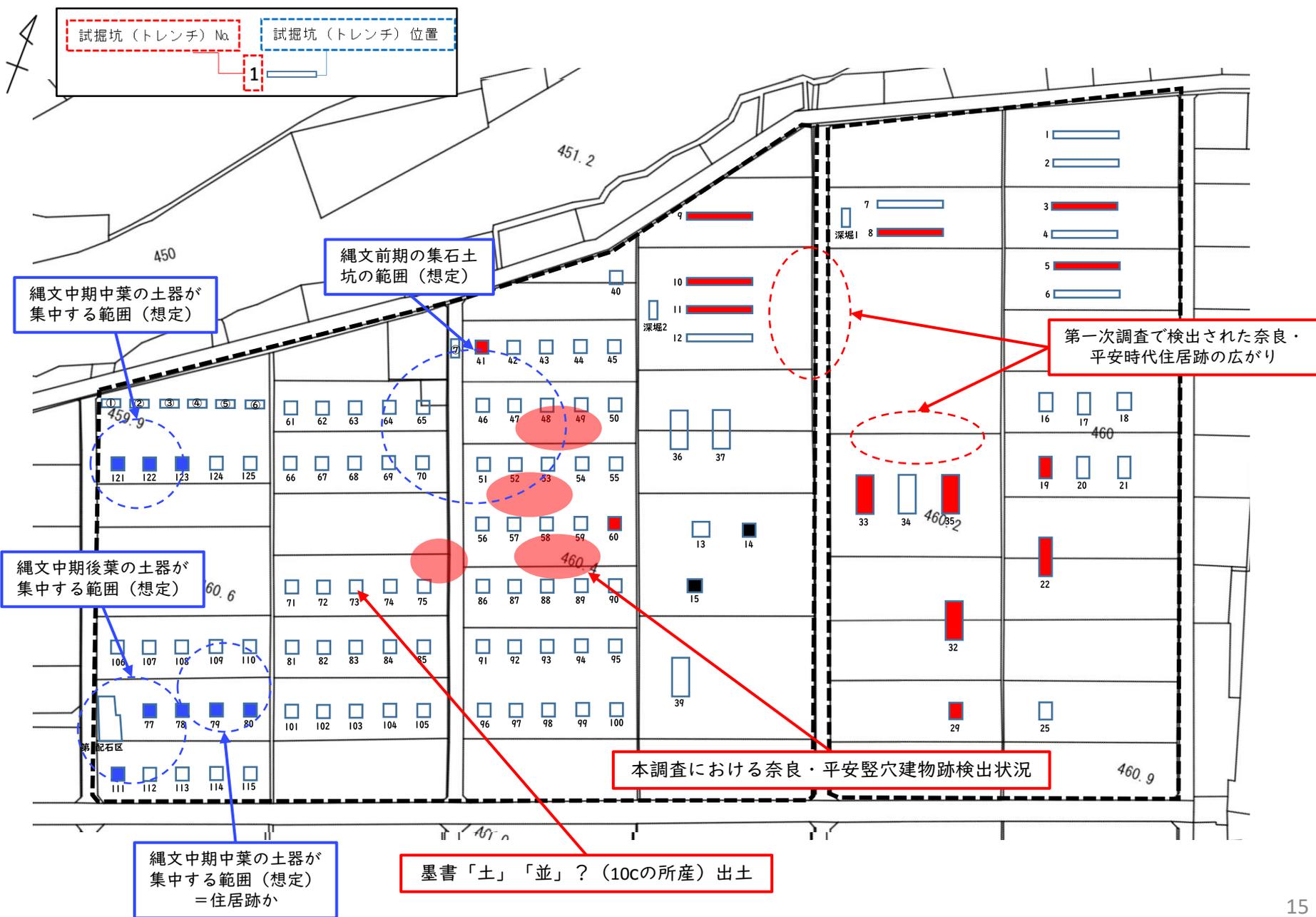








A区試掘坑配置図 (21+深堀1) / B区試掘坑配置図 (90+配管設置予定箇所7+深堀1)



試掘調査結果概要(第I配石区確認)

- 第三次調査時、径20~30cm大の河原石による組石5基を中心に、柄鏡状を呈し礫が散在。曾利IV・Vおよび加曾利E4が確認されている。これを第I配石区として設定。
- 第三次調査における遺構検出面深度確認のための調査を実施。
- 現地表-85~90cm付近にて、径20~40cm程度の礫が複数検出された。
- 礫はローム漸移層(昭和測量設定第V層)直上に点在。
- 周辺では、現地表-40~50cm付近にて縄文時代中期後葉の土器片が多量に出土している。



第I配石区近景(昭和56年撮影)



第I配石区確認調査近景(北から)



第三次調査時、第I配石区調査風景(昭和56年撮影)



第I配石区検出面(北東から)

試掘調査結果概要 (B区/51Tr)

- 過去調査において記録無し。
- 現地表-95~100cm付近にて、径10~15cm程度の礫が複数検出された（集石土坑）。その後トレンチ東側・南側に2m程度拡張。限定的な調査のため当該トレンチでの礫の広がり未確認。
- 現地表-80cm付近まで客土？（遺物なし）が堆積。



北側

試掘坑近景（北東から撮影）



土層堆積状況（北東から撮影）



土器出土状況（試掘坑中央付近）



出土土器片2点

試掘調査結果概要 (B区/77Tr)

- 最深部は現地表-105cmの掘削。ローム漸移層（昭和測量設定第V層）まで掘下げ、遺構の有無を確認。第IV層より縄文時代中期後葉の土器を伴う土坑が検出された。
- 現地表-45cm付近にて石棒？出土。



北側

試掘坑近景 (北西から撮影)



土層堆積状況 (北西から撮影)



北側

土坑検出状況 (西から撮影)



土坑内出土土器片

試掘調査結果概要 (B区/80Tr)

- 最深部は現地表-85cmの掘削を実施、遺構の有無を確認。縄文時代中期中葉の土器片が集中。
- 径5～10cm大の礫も多数出土。
- 遺物・礫が集中する状況であり、住居跡が想定される。



北側

試掘坑近景 (北西から撮影)



土層堆積状況 (南西から撮影)



北側

作業風景 (北西から撮影)



試掘坑南西側における土器出土状況

- 最深部は現地表-110cmの掘削。
- 現地表-65～70cm付近にて、縄文時代中期後葉の土器片多数出土。
- トレンチ西側にて第Ⅴ層が東側の第Ⅳ層に潜り込む形で検出されている。
- 第Ⅳ層および第Ⅴ層の中間付近にて炭化木が確認された。トレンチ南側壁面にサブトレを設定、炭化物が検出されなくなる範囲まで深堀を入れたところ、現地表-110cmまで混じりこむ状況。



オルソ写真



南側壁面

試掘調査結果概要 (B区/121Tr・122Tr)

- 現地表-40cmの掘削。縄文時代中期中葉の土器片多数出土。(121Tr)



試掘坑近景 (北西から撮影)



土層堆積状況 (北西から撮影)

- 121Trと同様、現地表-40cmの掘削。縄文時代中期中葉の土器片多数出土。(122Tr)

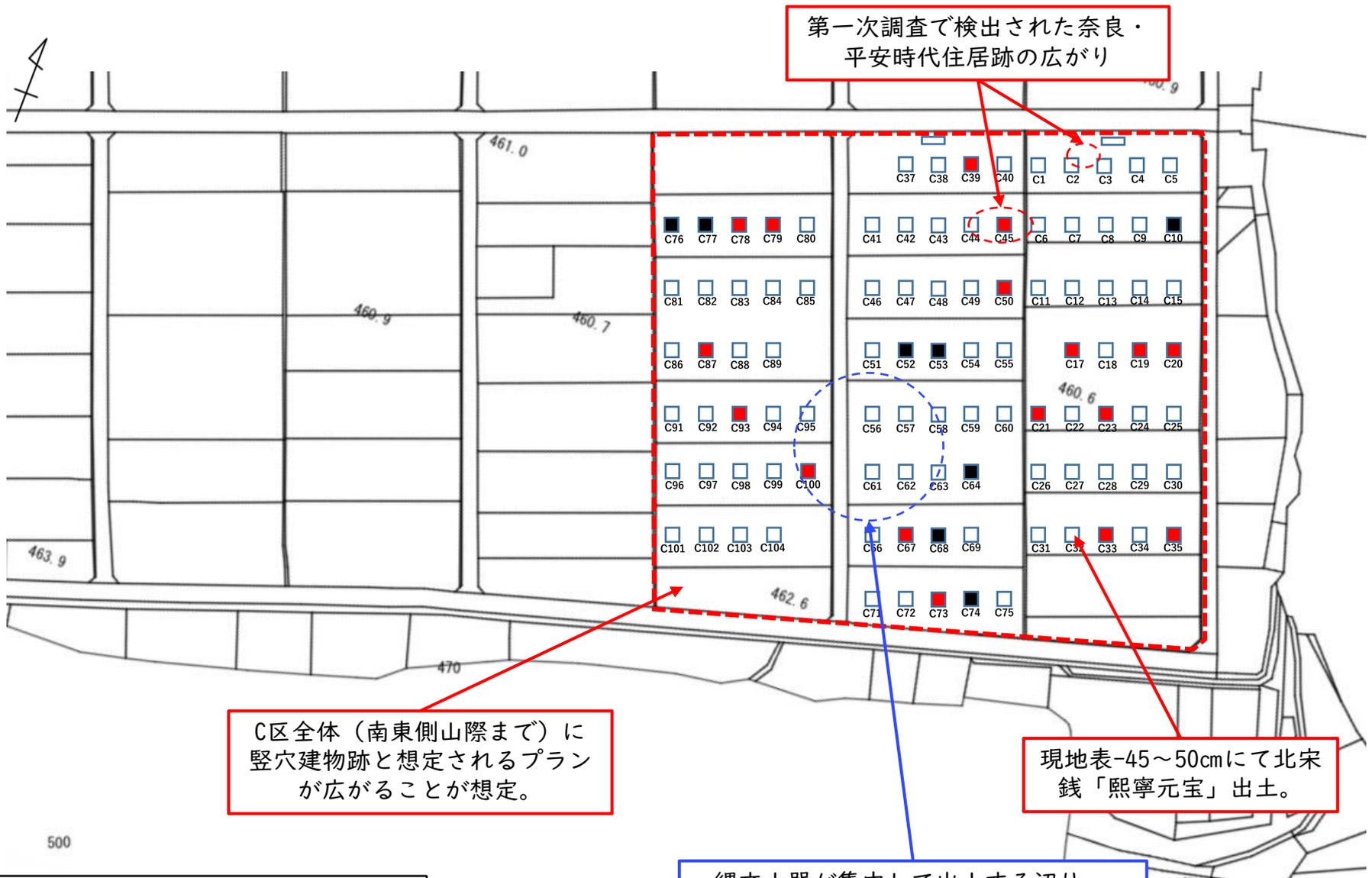


試掘坑近景 (北西から撮影)



土層堆積状況 (北西から撮影)





試掘坑（トレンチ）No.	試掘坑（トレンチ）位置
1	

- 最深部は現地表-195cmの掘削。(C3Tr)
- 遺構・遺物なし。スコリアが検出されず、まだらな状態。



試掘坑近景 (南東から撮影)



土層堆積状況 (南東から撮影)

- 現地表-70cmの掘削。遺物の出土状況および立ち上がりから住居跡と判断。(73Tr)



試掘坑近景 (北西から撮影)



土層堆積状況 (北西から撮影)

試掘調査結果概要 (C区/C56Tr・73Tr)

- 現地表-125cmの掘削。(56Tr)
- 遺構は確認できないものの、土器片および径10cm程度の礫出土。



試掘坑近景 (南東から撮影)



土層堆積状況 (南東から撮影)

- 最深部は現地表-125cmの掘削。現地表-55cm付近まで客土が堆積している。(73Tr)
- 粘土が検出されており、遺物の出土状況から住居跡と判断。



試掘坑近景 (北西から撮影)



土層堆積状況 (北西から撮影)

本調査進捗状況



第I調査区・A区西側

本調査区俯瞰写真(昭和測量撮影) 北側より



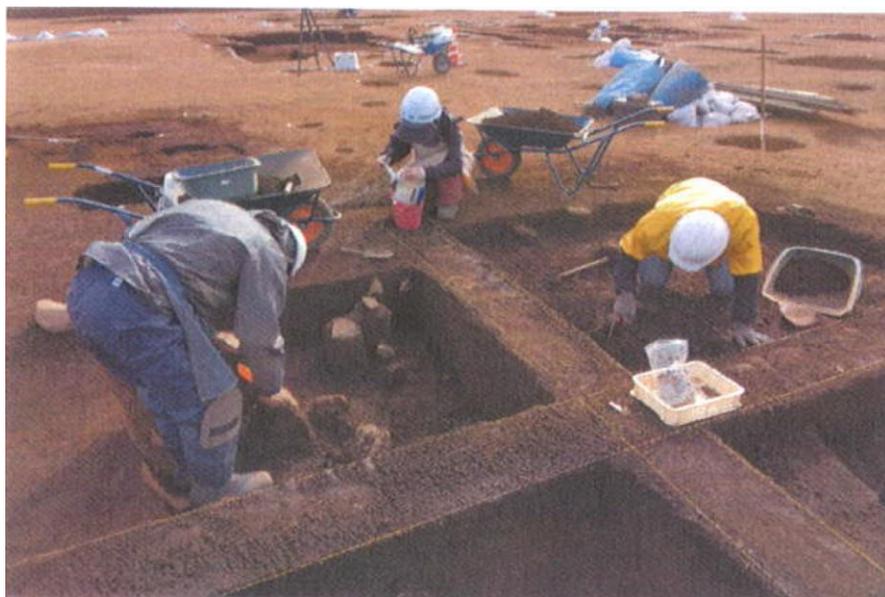
1月月次報告時点、A区西側の第一遺構検出面（奈良平安遺構検出面）の調査を終了。
竪穴建物13軒、土坑約310基等が確認。竪穴建物SI12（奈良時代）にて馬とみられる歯が出土。



A区掘立柱建物完掘状況(南から)



A区竪穴建物完掘状況(南から)



A区作業風景(建穴建物掘削風景)



A区作業風景(カマド実測状況)



A区 竪穴建物AI12 (北から)



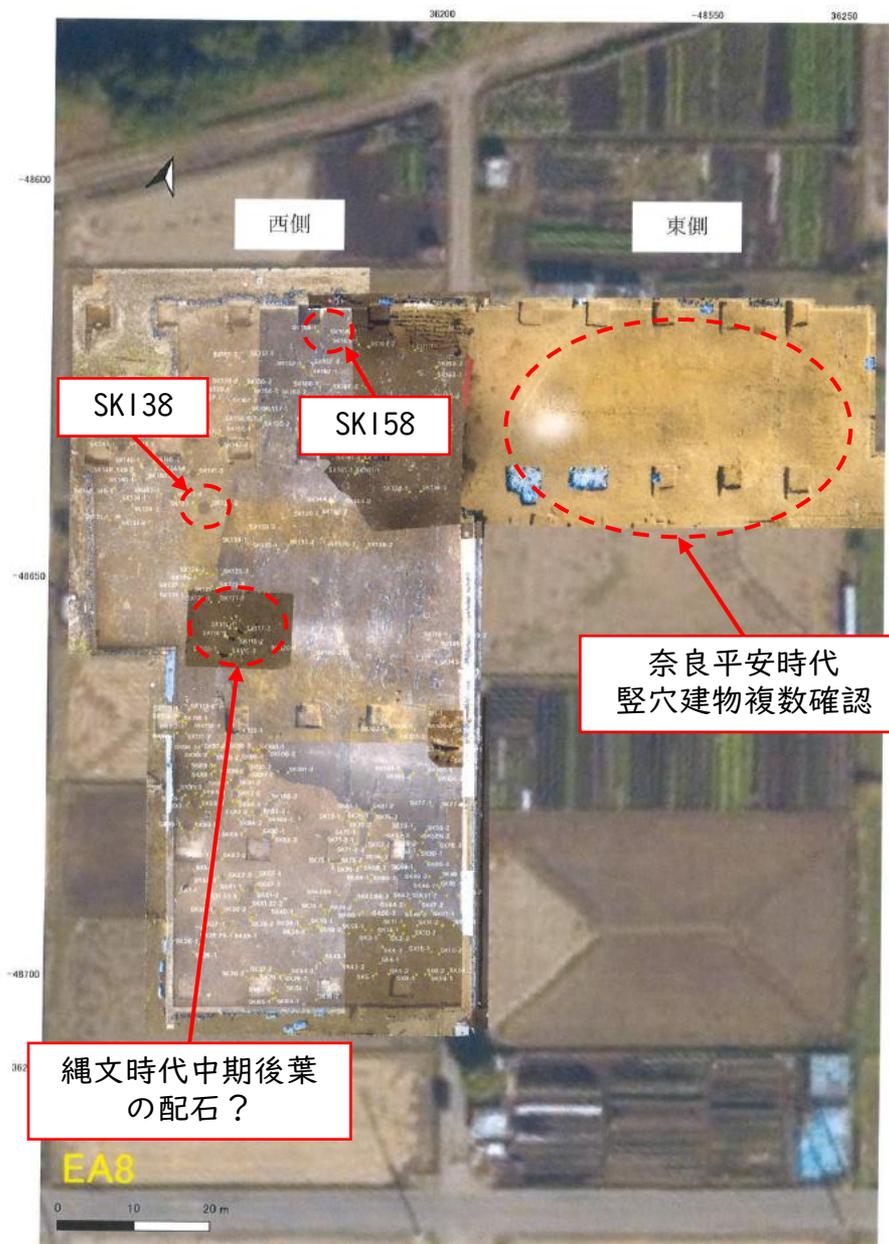
SI12 カマド



SI12 馬とみられる歯



A区 竪穴建物完掘状況 (南から)



1月月次報告遺構検出モザイク図



12月月次報告遺物分布モザイク図



石棒出土状況(北西から)



石棒出土状況



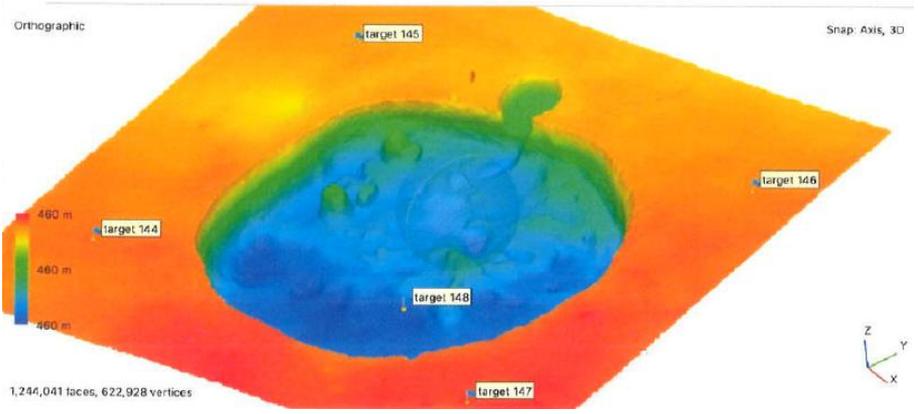
配石検出状況(南から)



配石検出状況(南から)



SKI 38 焼土堆積状況3Dモデル



SKI 158 弥生期土坑(条痕文土器出土状況)